



立野

練馬区立立野小学校

平成26年 9月号

<http://www.tateno-e.nerima-kyo.ed.jp>

“実りの秋”を目指して

校長 岡本 昌子

猛暑と豪雨に悩まされた夏でした。特に、先月20日未明に広島市で起きた土砂崩れでは被害が複数箇所で発生し、多くの死者・行方不明者が出ました。亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、多くの被災者の方々に、心からお見舞いを申し上げたいと思います。

さて、立野小学校の子供たちは、地域や保護者の皆様の見守りによって、大きな事故や怪我もなく元気に過ごすことができました。それぞれの場所でたくさんの経験を積んで、たくましく成長したことでしょう。

教職員も、水泳指導や学力補充教室等の校内での勤務以外に、それぞれの職層や担当職務に必要な研修や、教科の指導力を高める研修に励みました。さらに本校では、経験豊かな教員の実践的知識や指導技術を校内で引き継ぐことや、教員同士で学び合い高め合うことを求めて、校内の教員が講師となり自分の専門分野や得意な分野に関する講座を開設する研修会を複数回実施いたしました。

その中から1つ紹介させていただきます。下の写真は、図工専科の田中主任教諭主催の『1学期後半、すぐに使える手作り表示講座』です。そこでは、日頃パソコンなどで済ませてしまう教室内や廊下の表示の手作りに挑戦しました。研修は終始和やかに進み、1時間の講座修了時には、個性豊かな表示が完成しました。（9月に各学級の掲示板に登場します。児童作品と共に、ぜひご覧になってください。）

この研修のねらいは、作品を完成させることだけではなく、子供の気持ちを疑似体験してみるということもあります。研修の中で、教員は、様々な子供の気持ちを体験しました。

- ・例示が3つ準備されていることによって、自分で作りたいものを選択することができたり、自分なりの工夫を思い付いたりして、それが作りたいという意欲につながる。作り方に悩んだときにも、例示を参考に出来る。
- ・材料が豊富に用意されていると、どんどん試したくなり、楽しく取り組める。
- ・やり方がよく分からなかったり、他の先生がどんな作品を作っているか気になったりすると、立ち歩きたくなる。作業中、立ち歩いたり、おしゃべりをしたりする子供の気持ちが分かる。
- ・イメージ通りに作業が進まなくて困っているときに、先生がそばに来てアドバイスをしてくれて、上手く出来るとすごくうれしい。「いいね」と声をかけてくれるだけでも、「自分のやり方でいいんだ」と安心できる。
- ・作業終了の時間が迫ってくると結構焦る！子供たちには、安易に「時間は5分」とか、「20分で仕上げる」と言うけど、同じ進度では進まない。よりよくしようと工夫して、時間がかかる子供もいることが分かった。



3つのパターンの中から、自分が作りたいものを選びます。

様々な材質の材料の中から、自分のイメージに合う材料を選んで作業を進めます。



それぞれのイメージを大切にしながら、指導者が適切なアドバイスをします。

この他にも、児童理解やパソコン操作、劇指導などの研修も実施し、充実したものとなりました。

さあ、1学期後半のスタートです。それぞれの教員が、この夏の研修で学んだことを生かしながら、“実りの秋”を目指して、子供たちと共にがんばります。